

『おかやま四ツ☆子牛』認定率向上を目指した子牛生産技術の開発 — 哺乳量の違いが和牛子牛の成長に及ぼす影響の調査 —

岡山県農林水産総合センター畜産研究所 飼養技術研究室

背景

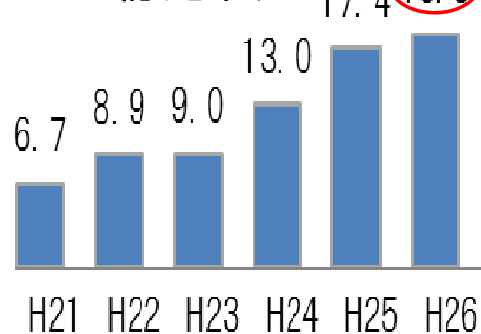
岡山県の和牛子牛市場では、一定の基準を満たした発育良好な子牛を「**おかやま四ツ☆子牛（岡山和牛推奨子牛）**」として認定し、優良な肥育素牛として購買者へPRしています。

「おかやま四ツ☆子牛」に認定されると、**販売価格も高値**になる傾向があるため、近年は生産者の意識も高まり、認定基準の適合率は年々上昇してきています。

しかし、人工哺乳で育てられた子牛は適合率が低い傾向にあるため、認定率を向上させる人工哺乳技術が求められています。

そこで、哺乳量の違いが和牛子牛の成長に及ぼす影響を調査しました。

四ツ☆認定率%



H26年度 自然哺乳と人工哺乳の認定率

H26認定率	自然哺乳	人工哺乳
去勢	29.4%	14.1%
雌	14.6%	8.0%

実施内容

[試験牛]

出生後、3日目で母牛から分離した、黒毛和種雌子牛17頭

[試験期間]

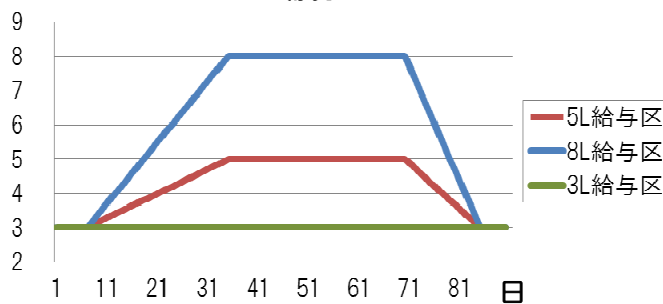
3日～90日齢（87日間）

[試験区分]

- ・ 最高で8L給与区
- ・ 最高で5L給与区
- ・ 最高で3L給与区

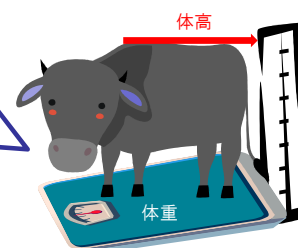


L/日 人工哺乳プログラム

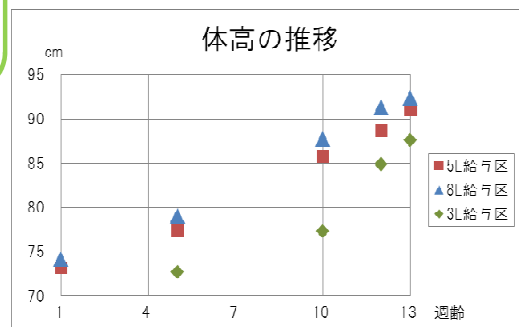
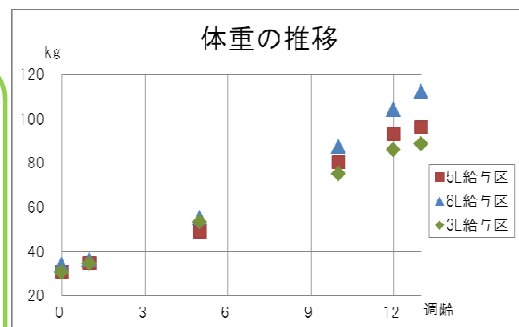


結果

体重と体高(身長)のデータを披露しちゃいます♡



体重は3L給与区に対し、8L給与区が大きくなりましたが、体高に差はみられなかった。



まとめ

- 1, 発育は、3L給与区と比較して、8L給与区は試験期間中の体重が有意に増加しました。
- 2, しかし、5L給与区と8L給与区では、体重および体高の増加量に差は見られませんでした。